

平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年8月10日

上場会社名 株式会社サハダイヤモンド
 コード番号 9898 URL <http://www.sakha.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) IR戦略室室長
 四半期報告書提出予定日 平成28年8月10日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 姜 杰
 (氏名) 井上 喜明

上場取引所 東
 TEL 03-3846-2061

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	337	△65.9	△49	—	△65	—	△48	—
28年3月期第1四半期	988	18.5	△40	—	△46	—	△66	—

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 △152百万円 (—%) 28年3月期第1四半期 163百万円 (448.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	△0.14	—
28年3月期第1四半期	△0.20	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第1四半期	1,558	1,217	61.2	2.66
28年3月期	2,503	1,758	43.9	3.07

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 953百万円 28年3月期 1,098百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,745	△48.6	△100	—	△130	—	△118	—	△0.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) 、除外 1社 (社名) 維真珠宝(上海)有限公司
(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご参照ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご参照ください。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期1Q	358,172,137 株	28年3月期	358,172,137 株
29年3月期1Q	31,059 株	28年3月期	30,849 株
29年3月期1Q	358,141,143 株	28年3月期1Q	333,143,158 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想等に関する事項は、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用情勢や所得環境の改善の動きが見られ、全体として緩やかな回復基調を維持しつつも、中国をはじめとする新興国の景気後退、原油価格の低迷、英国の欧州連合(EU)からの離脱決定による影響への懸念、個人消費の停滞などから、景気の先行きは不透明な状況にあります。

このような経済状況のもと、当社グループの属する宝飾業界は、依然として厳しい経営環境が継続しております。

当社グループの海外事業(ジュエリーの店舗販売及び卸販売を中国で展開する事業)は、中国の景気後退による経済の悪化が顕著で、卸販売事業が衰退しており、小売り事業においても出店費用、人件費等の固定費が重荷になりかけておりました。何より、当社グループの早期黒字化が最優先の重要な課題であると位置づけており、損失額の累積が軽微なうちの早期の対応が重要であると考え、「海外事業」を構成していた連結子会社の維真珠宝(上海)有限公司の株式の一部を売却し連結の範囲から除外し、これに伴い、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメント内の海外事業を廃止しております。なお、当第1四半期連結累計期間に当該株式の譲渡契約がなされており、連結の範囲から除外されております。株式の議決権所有割合譲渡実行日は株式譲渡商業登記手続きが完了した7営業日以内ですが、中国においては手続き等が遅れる傾向があり、現時点では、商業登記手続きは完了していません。

また、譲渡代金の内一部は受領しておりますが、商業登記手続きが完了していないため、残りの現金及び宝飾商品は受領していません。

連結子会社の株式会社バージンダイヤモンドが展開するダイヤモンド事業では、エンゲージリング及びマリッジリングをメインとした「Virgin Diamond」及び楽天市場の「ザ・ベストサプライズ」のインターネット販売に加え、ブライダルジュエリー及び高額品の店舗販売を行っておりますが、資金的事情から広告宣伝費等の支出を抑えざるを得ず売上高は低迷いたしました。

当社の海外子会社公開型株式会社サハダイヤモンド(ロシア)は主にダイヤモンド研磨の受注生産を行っております。当業界は昨年来の世界的な不振から脱却しつつありますが、依然として受注額は低迷しており且つ為替レートがルーブルに対して円高傾向が続き、売上高は伸び悩みました。

また、当社及び公開型株式会社サハダイヤモンド(ロシア)が展開する不動産賃貸事業の業績は、全室貸し出しが達成していない状況にあります。

この結果、当第1四半期連結累計期間業績の売上高は337百万円(前年同期比65.86%減)、営業損失は49百万円(前年同期は営業損失40百万円)、経常損失は65百万円(前年同期は経常損失46百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失48百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失66百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、既述のとおり、「海外事業」を構成していた連結子会社の維真珠宝(上海)有限公司の株式の一部を売却し連結の範囲から除外したことに伴い、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの内の海外事業を廃止しております。

(ダイヤモンド事業)

日本におけるダイヤモンド事業では、売上高は5百万円(前年同期比48.0%減)、セグメント損失は2百万円(前年同期はセグメント損失14百万円)となりました。

(ダイヤモンド研磨事業)

当社の海外子会社公開型株式会社サハダイヤモンド(ロシア)の売上高は314百万円(前年同期比57.1%減)、セグメント損失は1百万円(前年同期はセグメント利益10百万円)となりました。

(不動産賃貸事業)

不動産賃貸事業の売上高は17百万円(前年同期比25.0%減)、セグメント利益は0百万円(前年同期はセグメント利益3百万円)となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成28年5月20日の「平成28年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想から修正しております。

詳細につきましては、本日(平成28年8月10日)公表いたしました「通期の連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、上記の予想は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第1四半期連結会計期間において、当社の特定子会社であった維真珠寶（上海）有限公司の株式の一部を売却したことにより、維真珠寶（上海）有限公司は特定子会社に該当しないこととなり、当第1四半期連結会計期間より、連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更による当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(4) 追加情報

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、過年度において、継続的な営業損失を計上しており、前連結会計年度において、重要な営業損失、及び、親会社株主に帰属する当期純損失を計上いたしました。

また、当第1四半期連結累計期間においても、重要な営業損失、及び親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しております。

当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または、状況が存在しております。

当社グループにおいては、当該状況を解消し早期黒字化を図ることが優先課題であり、主に以下に示す施策を積極的に推進しております。

①コストダウン施策の実施及び強化

利益率の改善を図るべく、徹底した商品コストの見直しによる原価の削減、人件費の抑制及びその他経費全般についての見直しを行い収益改善を図ってまいります。

②ダイヤモンド研磨事業の強化

当社の海外子会社公開型株式会社サハダイヤモンド（ロシア）に最先端の技術と設備及びシステムを導入しております。これにより、ダイヤモンド研磨事業の更なる技術の向上とコストダウンを図ってまいります。

③インターネット及び店舗販売の強化

当社の子会社バージンダイヤモンドは、インターネットによるブライダルジュエリーの販売及びバージンダイヤモンド・ショールームにおける集客に注力してまいります。

④不動産賃貸事業の強化

当社及び公開型株式会社サハダイヤモンド（ロシア）が展開する不動産賃貸事業の賃貸物件の全室貸しに注力してまいります。

当社グループといたしましては、主に以上の施策を実施することにより、利益体質への転換と、事業の資金面での安定化に努めてまいります。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	708	160
受取手形及び売掛金	298	33
たな卸資産	731	318
未収入金	33	206
その他	114	68
貸倒引当金	△50	△43
流動資産合計	1,835	743
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	710	702
減価償却累計額	△161	△169
建物及び構築物(純額)	548	532
土地	95	94
その他	80	78
減価償却累計額	△60	△61
その他(純額)	19	17
有形固定資産合計	663	644
無形固定資産		
その他	0	0
無形固定資産合計	0	0
投資その他の資産		
投資有価証券	0	166
固定化営業債権	310	310
その他	5	5
貸倒引当金	△312	△312
投資その他の資産合計	4	170
固定資産合計	667	815
資産合計	2,503	1,558

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	222	3
短期借入金	215	113
未払法人税等	37	9
前受金	200	143
その他	55	47
流動負債合計	731	316
固定負債		
繰延税金負債	—	11
その他	13	12
固定負債合計	13	24
負債合計	744	340
純資産の部		
株主資本		
資本金	237	237
資本剰余金	2,177	2,177
利益剰余金	△1,078	△1,127
自己株式	△2	△2
株主資本合計	1,333	1,285
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△235	△331
その他の包括利益累計額合計	△235	△331
新株予約権	8	8
非支配株主持分	651	255
純資産合計	1,758	1,217
負債純資産合計	2,503	1,558

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	988	337
売上原価	928	333
売上総利益	59	4
販売費及び一般管理費	100	53
営業損失(△)	△40	△49
営業外収益		
受取利息	0	0
その他	0	0
営業外収益合計	1	0
営業外費用		
支払利息	6	2
持分法による投資損失	—	11
その他	0	2
営業外費用合計	7	15
経常損失(△)	△46	△65
特別利益		
関係会社株式売却益	—	24
特別利益合計	—	24
税金等調整前四半期純損失(△)	△46	△41
法人税、住民税及び事業税	3	9
法人税等合計	3	9
四半期純損失(△)	△50	△50
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	16	△2
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△66	△48

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
四半期純損失(△)	△50	△50
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	213	△101
その他の包括利益合計	213	△101
四半期包括利益	163	△152
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11	△145
非支配株主に係る四半期包括利益	151	△6

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、継続的な営業損失を計上しており、前連結会計年度において、重要な営業損失、及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上しておりました。

また、当第1四半期連結累計期間においても、重要な営業損失、及び親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しております。

これらにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消するため、前連結会計年度において、第三者割当による新株発行と第11回新株予約権の発行を決定し、283百万円の資金調達を行っており、今後の収益の柱となる新規事業の立ち上げなどを図っております。

当社グループは、新規事業含む事業計画を着実に実行し、既存のダイヤモンド事業、ダイヤモンド研磨事業、不動産賃貸事業の収益力の改善に注力するとともに、コストダウン施策の実施、経費全般の見直しを継続して実施し、収益体質の改善を図ってまいり所存です。

しかしながら、当社グループの計画は、当社グループが属する宝飾品業界の価格競争やダイヤモンドの国際的な相場変動、経済状況の変動などの影響を受け、計画が予定通り進まない可能性もあります。

このため、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

〈セグメント情報〉

I 前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイヤモンド ド事業	ダイヤモンド ド研磨事業	不動産賃 貸事業	トレーディ ング事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	10	733	22	—	767	220	988
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	0	—	0	—	0
計	10	733	23	—	768	220	989
セグメント利益又は損失 (△)	△14	10	3	△0	△0	15	15

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外事業であります。

2. 報告セグメントの合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△0
セグメント間取引消去	0
全社費用 (注) 1	△56
その他調整額 (注) 2	15
四半期連結損益計算書の営業損失	△40

(注) 1. 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. その他調整額は「海外事業」の金額を記載しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイヤモンド事業	ダイヤモンド研磨事業	不動産賃貸事業	トレーディング事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	5	314	17	—	337	—	337
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	0	—	0	—	0
計	5	314	17	—	337	—	337
セグメント利益又は損失(△)	△2	△1	0	△0	△3	—	△3

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外事業であります。

2. 報告セグメントの合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△3
セグメント間取引消去	0
全社費用(注)	△46
四半期連結損益計算書の営業損失	△49

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来報告しておりました「海外事業」は、平成28年6月29日に当セグメントを構成しておりました維真珠宝(上海)有限公司の株式の一部を売却し、連結の範囲から除外したことにより、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントから除外しました。

これにより、当第1四半期連結会計期間より、当社グループの報告セグメントは従来の「海外事業」、「ダイヤモンド事業」、「ダイヤモンド研磨事業」、「不動産賃貸事業」、「トレーディング事業」の5区分から、「ダイヤモンド事業」、「ダイヤモンド研磨事業」、「不動産賃貸事業」、「トレーディング事業」の4区分へ変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分方法によって作成したものを記載しております。